

校 園 名：山口大学教育学部附属山口小学校

所在地：〒753-0070 山口県山口市白石三丁目 1-1

電話番号：(083) 933-5950

記載日：平成 28 年 5 月 16 日

記載者：田中 善人

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

<本校の概要>



本校は、明治 7 年 4 月に小学校授業伝習所として開校、その後、山口県師範学校附属小学校を経て、昭和 26 年 4 月より、山口大学教育学部附属山口小学校と改称し、平成 28 年度は創立 142 年を迎える伝統校である。県都である山口市の中心部に立地し、山口県における教員養成はもとより、時代を先取りした先導的な研究の推進により、山口県の教育水準の向上に寄与している。

<学校経営構想（平成 28 年度）>

【学校教育目標】

自己をみがき、新しい時代を力強く生き抜く子ども

【めざす子ども像】

かしこく

自らの問いを追究し、学びの価値を見出す子

やさしく

相手意識をもち、自分自身を律する子

たくましく

心身ともに健康で、目標に向かって粘り強く取り組む子

【育みたい資質・能力】

- ☆ 自己の発揮 . . . 「身に付けた知識・技能を用い、新たな価値や生き方を見出すこと」
- ☆ かかわり 「人と豊かにかかわり、そのよさを取り入れること」
- ☆ 心の幹 「自己を律し、感性をみがき、粘り強く取り組むこと」

☆ 新学習指導要領の改訂を見据え、本校の学校教育目標を具現化するために、幼・小・中の学びの連続性を意識し、本校児童に育みたい資質・能力を設定

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ・過去に同窓会名簿の作成はあったが、現在は行っていない。
- ・官公庁、企業等にて、多くの卒業生が活躍している。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ・同人会名簿を作成している。
- ・多くが県や市町の教育委員会、公立学校においては、学力向上推進リーダー、学力向上推進教員などとして活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

「分かり合い、支え合うあたたかい仲間関係」をつくるフリートーク

本校では、毎日、朝の会の15分間を使い、フリートークを行っている。この取組は、県内の多くの小学校にも紹介され、実践している学校も少なくない。

1 ねらい

「分かり合い、支え合うあたたかい仲間関係」をつくる。

2 フリートークのよさ

- ①学級の中で暖かい信頼関係が生まれること
- ②子どもが、相手意識と目的意識をもって話したり聴いたりするようになること
- ③子ども自身が、自分の見方・考え方を見つめ直すことができること

3 フリートークの基本的な進め方

- ①話題提供者の子どもが話題を提供する
- ②みんなで話題について話し合う
- ③話題提供者がまとめる
- ④教師が価値付けをする。

4 フリートークによる効果として

フリートークのねらいは、「分かり合い、支え合うあたたかい仲間関係」をつくることである。

「分かり合い、支え合う」ためには、相手意識と目的意識を持って話したり自分と関わらせて聴いたり、互いの考えや立場を尊重しながら話し合ったりする必要がある。

このような中で、自然に話す力、聞く力や話し合う力が育つ。そして、その話し合う力は、協同的な学びを展開する授業の中で発揮されている。

フリートークの話題のタイプ

ア「仲間の好みや生活の様子について問う」タイプ

- ・「…2年生の国語で学習した中で、好きなお話は何ですか？」
- ・「…今、みんなが、がんばっていることは何ですか？」

イ「生活の中の気持ちや欲求について問う」タイプ

- ・「…習い事をやめたいと思うことはありませんか？」
- ・「…もし100万円あったら、何をしたいですか？」

ウ「生活の中の価値について問う」タイプ

- ・「…忘れ物をした人には貸さない方がいいと思いませんか？」
- ・「…兄弟はいた方がいいですか、いない方がいいですか？」

エ「生活上の問題の解決方法について問う」タイプ

- ・「…どうしたら、係で書いた新聞を読んでもらえますか？」
- ・「…どうしたら、朝、自分で起きられますか？」



地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

地域においては、学習指導、教員養成、人材育成など多岐にわたり、地域のモデル校的存在であるとする。毎年開催して初等教育研究発表大会には、山口県内外から、数百名の参会者が来られている。また、地域の研究大会や学校での校内研修において指導・助言を依頼されることが多く、各教科での授業づくり等において指導を行っている。学部・附属共同プロジェクトである「授業アドバイザー」制度では教育委員会とも連携し、県西部の学校に出向いての指導助言や県学力向上推進委員会への参加、さらには、山口県小学校教育研究会等の研究団体において、本校教員が研究、組織運営に携わることが多くあり、様々な取組を通して地域貢献を行っている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

附属学校としての本校には、次のような存在意義がある。

1 次代を先取りした教育実践研究校としての役割

附属学校には、世界や国の教育動向をつかみ、大学や学部との連携しながら先導的・実験的な取組を実施する「教育実践校」としての役割がある。

本校においては、「10年先の教育をめざす」をキーワードに研究を推進している。前述の「学びの実感がある授業をつくる」については、現行の学習指導要領改訂前から取組を始め、その研究内容は、現在、次期学習指導要領の実施に向けて注目されているアクティブ・ラーニングの要素を含む先導的なものになっている。

さらに、今年度からは、教育課程企画特別部会の論点整理や、小中一貫教育制度の導入に係る学校教育法等の一部を改正する法律の趣旨を踏まえ、「幼・小・中の学びをつなぐ山口小教育の創造」という研究主題を掲げ、山口市内の附属学校園（幼稚園、小学校、中学校）で育成すべき資質・能力を設定し、幼・小・中の学びをつなぐ授業研究はもとより、学校組織マネジメント、カリキュラムマネジメントについても研究の幅を広げ、公立学校の小中一貫教育のモデル校となることをめざしている。

このような次代を見据えた先導的・実験的な取組を積極的に推進し、地域の公立学校の模範をなすことは、附属学校に課せられた大きな使命であると同時に、県や市・町の教育委員会、公立小中学校からも大いに期待されているところである。



2 次代を担う優秀な教員の育成校としての役割



東京や大阪などの大都市圏に比べ、地方においては、教員養成の大きな責務を国立大学教育学部が果たしている。山口県においても同様である。教育学部の附属小学校での教育実習が、将来を担う優秀な教員養成の重要な機会となっている。教育学部や県教育委員会と連携しながら実施している本校における教育実習は、講義演習の内容、教材研究の進め方や学習指導案の作成、教育実習生の評価にいたるまで、山口県内の

他の公立学校における教育実習のモデル校となっている。さらには、教育学部在籍の学生をチューターとして受け入れ、教育実習とは違う長い期間を通しての実践的な指導も行っており、次代を担う優秀な教員の育成校として、本校の存在意義は大変大きいと言える。

3 地域への貢献についての役割



本校で開催する初等教育研究大会、夏期授業づくりセミナーの他に、県教委との連携事業である授業づくりアドバイザー、県小学校教育研究会等の教育団体との活動において、本校教職員を県内の公立学校の教職員に対して指導者として派遣している。

平成27年度は、年間40回以上の派遣を行うなど、地域の公立校へ本校の研究成果を還元している。

4 学校の中核となり得るミドルリーダーの育成についての役割

本校は、ほとんどの教員が、公立学校との人事交流で赴任して来ている。多くが本校が2校目から3校目、年齢的には30代前半の若い教職員である。本校においては、児童の教育はもちろん、学校運営に係る多くの業務を教職員が担当し、学校運営に積極的に参画している。この経験は、本校を転出した後に、学校運営の中核となるミドルリーダーの育成に直接つながっている。また、全附連に加盟している他の附属学校への研修視察を積極的に行い、各教科の授業づくりをはじめ、他県における教育の動向も積極的に吸収している。

このような附属学校に勤務することのメリットにより、本校を転出した後、多くの教員が県や市町の教育委員会の指導主事として活躍しており、山口県全体の教職員の資質向上に大きく貢献している。

以上、本校は、山口県教育の発展に大きな貢献を果たしている。今後も、次代を先取りした研究校として、山口県教育の更なる充実に寄与していきたい。